

積極的な撤退についての試案

A tentative plan for strategic rural reorganization

林 直樹

Naoki HAYASHI

1. はじめに

本稿では、積極的な撤退¹⁾⁻³⁾についての発展的な議論を進めるために、その試案を示す。あらかじめ断っておくが、いずれの過程においても、民主的な手続きが不可欠である。

2. 集落移転の簡単な流れ(試案)

(1)無人化危惧区域の指定

本稿では、ひとつの市町村、あるいは流域などのことを「地域」と呼ぶ。集落移転は、「地域」全体の計画の策定からはじめる。30年～50年以内に、無人化や著しい過疎化が危惧される山間の集落(移動手段が失われる集落など)と、その周辺を「無人化危惧区域(仮称)」に指定する。

(2)種火集落の指定

「無人化危惧区域」内にあって、なおかつ、「『地域』の代表として、固有の文化や(伝統的な手法で)二次的自然を守ることが望ましいと考えられる集落」を「種火集落(仮称)」に指定する。「無人化危惧区域」では、後述のように、集落移転の実施を検討するが、「種火集落」は除外される。なお、「種火集落」に対する支援は、別途検討する。

(3)移転先候補地の指定

比較的平坦で交通利便性のよいところを探し出し、「移転先候補地」に指定する。「移転先候補地」は、鉄道駅付近が望ましいが、幹線道路沿線でもよい。ただし、幹線道路のバスの本数が十分に多く、なおかつ、鉄道駅につながっていることが条件。移転先候補は、自家用車が利用できない高齢者や児童・生徒の立場で考えることが肝要である。

(4)集落移転の検討

「無人化危惧区域」内のそれぞれの集落(「種火集落」は除く)について、集落移転の移転先と移転方式(表1参照)を検討する。住宅だけでなく、神社や寺、墓地などについても慎重に検討する。

表1 移転方式についての試案

Table 1 A tentative plan for moving method

一度に	一度に移転する。	
漸進的に	季節住宅	冬期居住用の住宅をつくる。新しい生活になれた人から完全に移転する。
	高齢者住宅	介護や食事サービス付きの集合住宅をつくる。主に高齢者から移転する。 無論、高齢者でなくても移転可能。

3. 国土管理の具体例（試案）

国土管理も、「地域」全体の計画の策定からはじめる。本稿では、条件不利地の国土管理の具体例を簡単に示す。どのように管理するにしても、地籍調査を急ぐ。特に山林などでは、地籍がわからなくなりつつある。

(1) 荒廃人工林

(a) 国土保全・水源涵養のために、下層植生を導入する。すなわち、強度間伐（本数間伐率 50% 以上）を行うか、耐陰性の強い下層木を植栽する⁴⁾。(b) 天然林に戻す。

(2) 田畑（耕作放棄地を含む）、図 1 参照

(a) これまで通り、田畑としての利用。(b) 放牧地に変える。管理の方法にもよるが、放牧地は比較的すみやかに、もとの田畑に戻すことができる⁵⁾。(c) 何もしない。その他、野外博物館に、湿地生息地に、積極的にもとの自然に など。

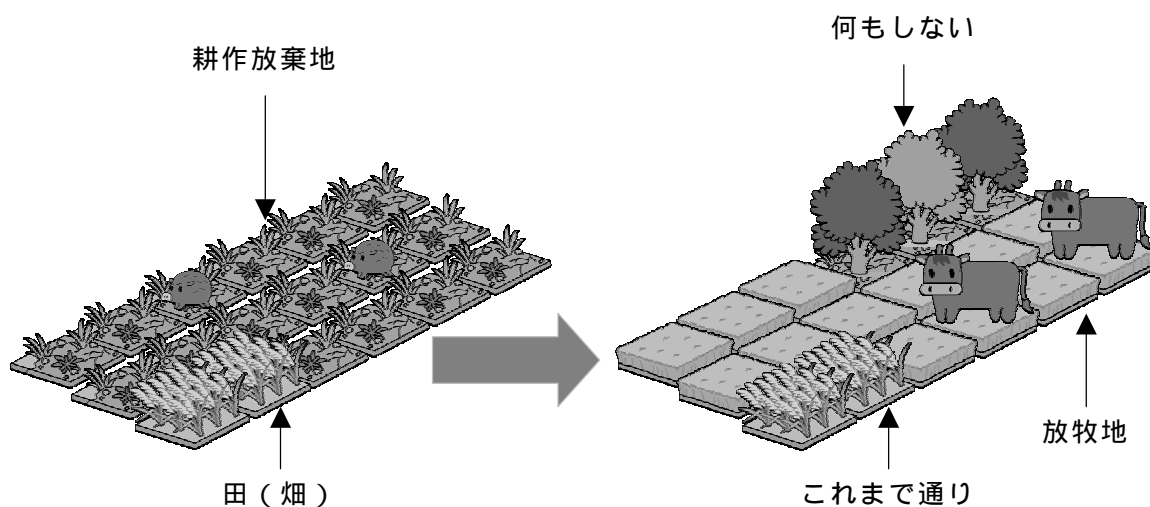


図 1 田畑の再構築

Fig. 1 Reorganization of fields

(3) 使用されなくなった道路など

(a) ゴミ投棄防止のため、進入禁止にする。(b) 財政の弱体化を緩和、「地域」全体の効率を改善するために、管理を簡素化（撤収を含む）する。

謝辞：共同研究会「撤退の農村計画」(<http://tettai.jp/>)のメンバーの皆様には、多大なるご協力、アドバイスを頂いた。記して深くお礼申し上げる次第である。本研究は科研費（19780184）の助成を受けたものである。

参考文献

- 1) 林直樹・齋藤晋・一ノ瀬友博・前川英城（2007）：共同研究会「撤退の農村計画」—人口減少時代の戦略的農村再構築—。農村計画学会誌，25(4)，564-567。
- 2) 林直樹・前川英城・齋藤晋・一ノ瀬友博（2008）：人口減少時代の中山間地域。ランドスケープ研究，71(4)，357-360。
- 3) 林直樹（2008）：撤退の農村計画。農業農村工学会誌，76(12)，50。
- 4) 野々田稔郎（2008）：下層植生に配慮した森林管理の試み（恩田裕一編，『人工林荒廃と水・土砂流出の実態』。岩波書店，東京，pp.183-191。
- 5) 有田博之（2005）：ウシの放牧がもつ耕作放棄田の管理機能と土地利用。農土論集，235，51-58。